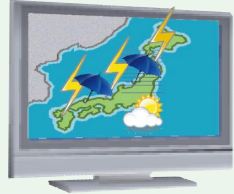


気象情報を有効に使おう!

《1》外出前に気象情報や雷注意報を確認しよう!



屋外活動の前には、天気予報や雷注意報をチェックしましょう。

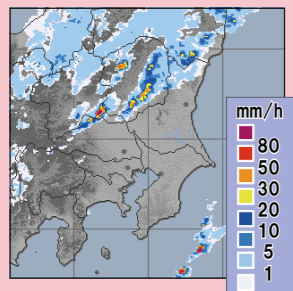
- ◆雷注意報は雷や竜巻が発生する数時間前から発表します。
- ◆雷注意報の発表中は溪流・河川敷や中州・親水公園などでの活動はさげましょう。
- ◆気象状況は、テレビやラジオのほか気象庁ホームページでも確認できます。

注意報・警報のホームページ <http://www.jma.go.jp/jp/warn/>

《2》最新の状況をナウキャストで確認しよう!

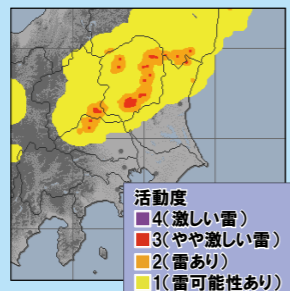
屋外で活動する場合は、ナウキャストで、強い雨、雷、竜巻の状況や予報に注意しましょう。

レーダー・降水ナウキャスト



雨の降る場所や強さを表します。

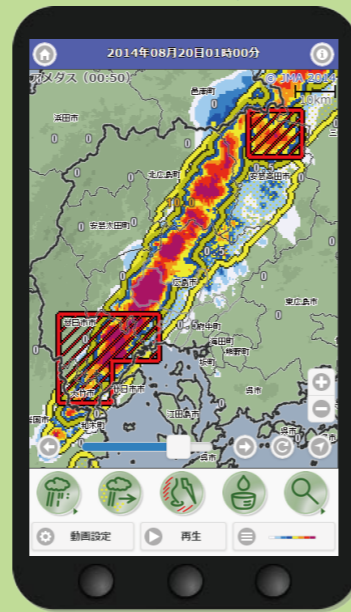
雷ナウキャスト



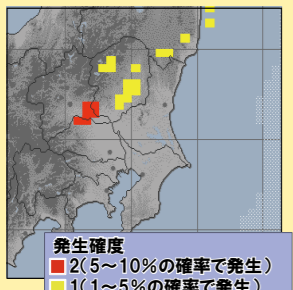
雷の起きる場所や激しさを表します。

高解像度降水ナウキャストで雨の見通しをさらに細かく確認できます! スマートフォンにも対応

- 雷活動度4の領域、竜巻発生確度2の領域を重ね合わせることができます。
- 5分毎の降水の強さと範囲を30分先まで250m四方の細かさで表します。(35~60分先までは1km四方)



竜巻発生確度ナウキャスト



竜巻などの激しい突風のおそれがある場所や確率を表します。

○ナウキャストのホームページ(PC)

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



○ナウキャストのホームページ(携帯)

<http://www.jma.go.jp/jp/bosaijoho/m/radnowc/>



○高解像度ナウキャストのホームページ

(PC、スマートフォン)

<http://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>



《3》積乱雲が近づいてきたら建物に避難しよう!

こんな時、発達した積乱雲が近づく兆しです。急な大雨・雷・竜巻の危険があります。

- ◆真っ黒な雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- ◆雷鳴が聞こえたり、電光が見えたりする。
- ◆ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- ◆大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

運動場など開けた場所や水辺は危険です。すぐに避難しましょう。



気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町 1-3-4

TEL : 03-3212-8341(代表)

FAX : 03-6689-2917(耳の不自由な方向け)

ホームページアドレス : <http://www.jma.go.jp/>

このリーフレットは、上記ホームページからダウンロードできます。

このリーフレットは、印刷用の紙ヘリサイクルできます。

平成28年3月

急な大雨・雷・竜巻

— ナウキャストの利用と防災 —

積乱雲(入道雲)の下で急な大雨・雷・竜巻が発生し、大きな被害につながります。

晴れていても、上流に降った雨で急に増水することがあります。



落雷の危険が高くなります。



竜巻が発生することがあります。

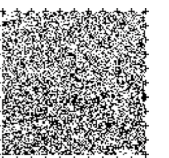


詳しくは、防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう!」をご覧ください。

急な大雨 検索



気象庁



音声コード

積乱雲に伴って、このような災害が発生します！

被害をイメージして
回避しよう！

急な大雨による災害



雷による災害



竜巻による災害



危険な状況
避けるには…

雷から身を守るには…

竜巻から身を守るには…

1 雨が降り始めたり、空や川に異変を感じたら、
すぐに水辺から離れる

- 上流に降った雨で、急に増水することがあります。
- サイレンの音は、ダム放流の合図です。

危険! × 水かさが増え、濁ったり、枝などが流れてくる時は危険です。

2 **浸水した場所に注意**

危険! × 大雨のときは地下室や地下街は水が流れ込み、危険です。

- 浸水した道路では、側溝が見えずマンホールのふたが外れている場合もあり危険です。
- 地下を通る道路など低い場所では通行に注意が必要です。

危険! 車が水につかると、水圧でドアが開かなくなり危険です。

1 **雷鳴が聞こえたらすぐ避難**

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる人は安全な場所に避難しましょう。

2 **建物の中や自動車へ避難**

- 建物や屋根付きの乗り物（自動車など）へ避難しましょう。

危険! × 雨宿りで木の下に入るのは大変危険です。

3 **木や電柱から4m以上離れる**

- 側撃雷の恐れがあるので、木や電柱から4m以上離れてください。右の図の三角の範囲内は比較的危険は小さいですが、なるべく早く屋内の安全な場所に避難しましょう。
- 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

保護範囲 45° 4m以上離れる

冊子「雷から身を守るには」(日本大気電気学会編集)から引用

1 **頑丈な建物の中へ避難**

- 避難するときは屋根瓦などの飛来物に注意しましょう。
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう。

危険! × 車庫・物置・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険です。

2 **屋内でも窓や壁から離れる**

- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
- 窓、雨戸を閉め、カーテンを引きましょう。
- 頑丈な机の下に入り、頭と首を守りましょう。

1階の窓の無い部屋へ

窓のある部屋ではカーテンを閉め、窓から離れる